



はじめのいっぽ

平成29年度 平成 29 年 7 月 31 日
8月号 幼保連携型認定こども園
東野田ちどり保育園
江川 永里子

「暑中お見舞い申し上げます」

安田式プール！！が大活躍しています。

各々のクラスで水遊びを楽しみながら、厳しい暑さに負けずに夏を乗り切りたいと思います。

屋上園庭の夏野菜が豊作！！

厨房で調理して頂き、沢山ご馳走になります。



～ アドラー より ～

どんな場合にも子どもは適切な行動をするか

子どもが適切な行動をしているとき、かならずしも子育てがうまくいっていると安心することはできません。なぜなら、次のような3つの場合が考えられるからです。

1.罰を恐れて適切な行動をする場合

子どもが勉強しないと激しく罰することにします。そうすると、子どもは勉強するかもしれません。「勉強する」というのは適切な行動だと思います。しかし、いつまでたっても子どもは勉強が好きにならないかもしれません。また、罰することをやめると、たちまち勉強をやめてしまうでしょう。

伝統的な育児や教育は、しばしば罰でもって子どもを動かしてきました。この方法は、即効性はあるかもしれないのですが、長期的に見ると、とてもまずい方法だと思います。

2.賞を求めて適切な行動をする場合

たとえば「試験で100点をとったら、ごほうびにおもちゃを買ってあげるわね」と約束したとします。そうすると、子どもは喜んで勉強するかもしれません。「勉強する」というのは適切な行動だと思います。しかし、子どもは、おもちゃ(賞)をもらうために勉強しているだけで、勉強することのほんとうの意味がわかってしているわけではありません。ですから、親の気が変わって、賞をあげないことにすると、たちまち勉強しなくなってしまうでしょう。

ある種の心理学は、「ほめて育てよう」と言います。しかし、それも、<子育ての目標>から考えると、あまりよい方法ではないように思います。

3.適切な信念にもとづいて適切な行動をする場合

アドラー心理学がめざしているのは、子どもが適切な信念、すなわち、

- 1)私は能力がある。
- 2)人々は私の仲間だ。

ということを感じていて、その結果、適切な行動をすることです。これは、罰を恐れている場合や賞を求めている場合とは違って、子どもを動かしている力が子どもの内側にあります。ですから、ほんとうの意味で子どもは自立しているのです。